

有明海におけるICTブイ活用によるノリ養殖の取組（大和漁業協同組合様）

事例の概要

- おいしい海苔をたくさん収穫するためには、海苔がまだ小さい芽の時から細胞レベルの生育状態に合わせ、適切な手入れをする必要がある。海苔漁師は、一日に何度も船を出し、海水温や比重（塩分濃度）の変化を調べ、長い経験で培ったノウハウと勘で海苔の状態を推測し、適切な作業をしていた。燃油料もかかるし、稼働もかかるので大きな負担となっていた。
- ドコモのICTブイの存在を知り、デモ機貸出により製品を評価をおこなった上で導入。船を出さなくても海水の状態がいつでも把握できるようになった。今までも船を出して、計測していた海水温や比重はノートにとっていたが、データ化できないためにその記録を活かすことができていなかった。ICTブイでは、過去のデータがグラフ表示で簡単にわかるので、これまで気がつかなかった海の変化が解明され、対処できるようになった。この海の変化と海苔養殖の作業は結びつけば、これまで「こうだろう」と勘に頼っていたことが「こうしよう」に変わる。後継者の育成にも役立てることができる。
- 船の燃油料削減、稼働削減、作業効率化、後継者育成に役立っているが簡単に数値として表すことができない。なぜなら海は刻々と変化するからだ。でも確実に海苔の品質と収量の底上げにつながっていると言えるだろう。

導入事例 動画 <https://www.nttdocomo.co.jp/biz/casestudy/yamato/>

